

日本庭園技術特論 (2単位)

担当者氏名 栗野 隆

◆学習・教育目標(到達目標を記載)

本特論では日本庭園の技術について学ぶ。技術の範疇としては、立地選択から空間構成、意匠、素材、施工法、維持管理までを捉える。本特論の学習内容は4つの柱で構成される。第一に、原始古代から近現代に至るまでの日本庭園の造作技術を確認する。第二に、文化財庭園について、発掘調査から保存修復に至る技術と方法を学ぶ。第三に、日本庭園に設けられる石造美術品について、種類の体系、観察の方法、年代判定方法を学ぶ。第四に、学習で得た知見を具体的に理解し、美意識と感性を養うことを目的に、日本庭園の伝統施設である垣根、飛石、延段を用いた作庭を実践する。本講義を通じ、日本庭園の意匠の伝統性、素材選択の工夫、施工の手順を技術的な観点から理解し、造園の技術家として現場監理を実行しうる専門知識と行動力を身に付けることが、学習到達目標である。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

日本庭園 _____ 文化財庭園 _____ 技術 _____ 作庭 _____
保存修復 _____ 石造美術 _____ 庭園施設 _____ 小仕事 _____

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	日本庭園の技術史	原始古代から近現代の庭園技術	第1~3回は資料に事前に目を通し、講義に臨むこと。
2	文化財庭園の保存修復	文化財庭園の調査と保存	
3	石造美術品と日本庭園	石造美術品の分類と観察方法	
4	作庭の構想・計画・設計①	伝統庭園技術の実践に向けた調査・計画・設計	第4~7回は調査の内容・手順を十分に把握し、調査に必要な用具、製図用品を持参すること。
5	作庭の構想・計画・設計②	伝統庭園技術の実践に向けた調査・計画・設計	
6	作庭の構想・計画・設計③	伝統庭園技術の実践に向けた調査・計画・設計	
7	作庭の構想・計画・設計④	伝統庭園技術の実践に向けた調査・計画・設計	
8	日本庭園技術の実践①	作庭の実践による庭園技術の理解	第8~15回は、現場での作庭手順を十分に理解し、作業にふさわしい作業着・地下足袋を着用して安全性に特に留意すること。
9	日本庭園技術の実践②	作庭の実践による庭園技術の理解	
10	日本庭園技術の実践③	作庭の実践による庭園技術の理解	
11	日本庭園技術の実践④	作庭の実践による庭園技術の理解 (4コマ連続)	
12	日本庭園技術の実践⑤	作庭の実践による庭園技術の理解	
13	日本庭園技術の実践⑥	作庭の実践による庭園技術の理解	
14	日本庭園技術の実践⑦	作庭の実践による庭園技術の理解	
15	日本庭園技術の実践⑧	作庭の実践による庭園技術の理解 (4コマ連続)	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

資料の配布

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

日本庭園の伝統施設/河原武敏/東京農大出版会

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト)

作庭計画課題 (30点)、作庭実践課題 (70点)

◆オフィスアワー

原則、水曜日の午後11号館5階の研究室にて受け付ける。

◆その他受講上の注意事項

本講義は夏期集中で開講する。第8~15回は、伝統的庭園技術を有する特別講師とともに授業をおこなう。